

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：14403

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653266

研究課題名(和文) 国際的な態度形成に影響を及ぼす留学経験の比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study of influence of study abroad on the exchange students

研究代表者

森田 英嗣 (Morita, Eiji)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50200415

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では交換留学経験者を対象に、留学の動機や目的、留学が人生の選択に及ぼした影響についてインタビュー調査を行った。アメリカと韓国の留学経験者はどちらも自律的で自己決定性の強い動機がある場合は、学習・生活への適応状態に正の効果があること、日本人との適切な関わりや交流が留学効果に正の影響を与えていることが示唆された。またドイツ、フランスの留学経験者には内発的な動機が強く、タイの留学経験者には日本への関心という内発的動機と日本企業への就職に有利であるという外発的動機の両方が確認された。一方、日本人学生においては語学力が就職に有利であるという外的動機づけよりはむしろ「内発的動機づけ」が確認された。

研究成果の概要(英文)： In this research the former exchange students were interviewed to analyze their motivation and aims of study abroad. The American and Korean students who had studied at Osaka Kyoiku University (OKU) and were motivated by strong self-determination showed positive influence on their adjustment to the study and daily life at OKU. Moreover good relationship with Japanese people positively influenced on their study abroad. German and French informants showed intrinsic motivation and informants from Thailand displayed both intrinsic and extrinsic motivation.

On the other hand Japanese students who had studied abroad did not show the opinion that language abilities acquired during study abroad would be helpful for job-hunting and instead showed intrinsic motivation rather than extrinsic motivation.

研究分野：教育社会学

科研費の分科・細目：比較教育学

キーワード：留学の動機 留学効果 自己決定性 交換留学生

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、米日財団奨学基金により1999年から3年間実施された「グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト」に参加し、アメリカの小・中学校に日本の教員を派遣し、そこでの観察実習や授業実習を通して、参加者の国際理解教育の実践力に効果があることを明らかにした(森田 2000、2001、2002)。このプロジェクトは、大阪教育大学、広島大学教育学部、鳴門教育大学とアメリカ3大学とのコンソーシアムの基盤となり、2003年からは交換留学生を相互に派遣しているが、帰国後の学生は留学生の支援活動や国際交流活動を行うなど国際的資質の向上がみられる。このような資質は、グローバル化が進む今日の人材育成に欠かせないものであるが、留学経験や海外での研修が、国際的な態度形成にどのように結びついているのか、またその後の人生にどのように影響を及ぼしているのかは定かではない。そこで、交換留学が、学習者の国際的な態度形成に及ぼす影響を明らかにすることで、今後の留学や研修プログラムの開発に役立てることができると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、留学生と日本人派遣学生の留学において、どのような経験が、国際的に開かれた態度形成や人生の選択や設計にどのように影響するのかを検証することを目的としている。具体的には、対象者にライフ・ヒストリー調査を行うことで、留学効果の諸相を浮かび上がらせるとともに、それが出身国によってどのように異なるのかを明らかにすることを目的としている。また、どのような教育実践が、学習者にどのような影響を及ぼしているのかを検証するために、派遣先大学で訪問調査を行い、今後の留学や研修プログラム開発の発展のための示唆を得ることを目指す。

具体的には、大阪教育大学の卒業生ネットワークをもとに、協定大学の協力を得て、アメリカ、ドイツ・フランス、台湾、韓国、タイからの交換留学経験者と日本人派遣学生を対象にした聞き取り調査を行うことで、(1)どのような教育実践が、学習者にどのような影響を及ぼしているのか、(2)人生の選択や設計においてどのような影響を及ぼしているのか、(3)これらのことは、出身国によって異なるのかを検証することを目的にしている。

3. 研究の方法

本研究における調査実施国は、日本、アメリカ、ドイツ、フランス、韓国、台湾、タイである。

まず、(1)大阪教育大学を卒業した留学生および日本人派遣留学生にインタビュー調査を行う。(2)さらに日本人派遣留学生の派遣先である協定大学の協力を得て、受け入れや派遣プログラムを検証し、教育実践が学習者に与える影響を分析する。

交換留学経験者へのインタビュー調査においては長谷川、城地、若生、中山が行い、派遣先大学の訪問調査は向井、赤木が中心的な役割を担う。

4. 研究成果

卒業生名簿及び卒業生ネットワークを用いて、大阪教育大学での交換留学経験者に対して、非構造的インタビュー調査を行った。さらに、アメリカ、ドイツ、フランス、タイにおいては留学生支援の実態について把握するために、留学生の受け入れ組織を訪問するとともに授業の参与観察も実施した。インタビュー調査に関しては、留学の動機と留学の満足度、さらにそれがその後の人生における選択にどのような影響を及ぼしたかという点から分析を行った。留学動機の分析においてはRyan and Deci (2000)の理論的枠組みを援用する。

インタビュー調査においては、アメリカと韓国については、どちらの場合も自律的で自己決定性の強い動機（内発的あるいは統合的動機）がある場合は、学習・生活への適応状態に正の効果があること、また日本人との適切な関わりや交流が留学効果に正の影響を与えていることが示唆された。ドイツの留学経験者には内発的な動機が強く、留学経験がその後の人生の選択に大きな影響を及ぼしていることがうかがわれた。

また、韓国とタイでは日本語能力が就職において有利であることから、留学動機においては「外的動機づけ」のなかの「統合的調整」もしくは「同一化的調整」の傾向が見られた。

一方、日本人学生においては、語学力が就職に有利であるという「外的動機づけ」はみられず、むしろ「内発的動機づけ」が確認された。就職との関連については、留学を通しての成長過程が就職活動に有利であるという考えが読みとれる。

また、フランスの交換留学経験者については、日本での留学が就職に結びつくことが動機に影響することは確認できず、日本の文化に対する「内発的動機づけ」が見られる。しかしながら、派遣大学の訪問調査において派遣プログラムについて聞き取り調査したところ、「日本学」専攻の学生をできるだけ多く留学させるため、動機づけの弱い学生や動機づけの曖昧な学生も留学する可能性のあること、また他者からの要求で行動する「外的調整」を動機とする学生もいることが推測される。

これらのことから、留学動機においては、送り出し国の就職において有利となる条件や留学プログラムが留学動機に深く関係していることが示唆される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4件)

若生正和、長谷川ユリ、中山あおい「日本留学の動機・体験・効果：交換留学生を中心に」『大阪教育大学紀要』第 部門 教育科学 第 61 巻 第 1 号 pp.169-184

若生正和「短期留学生の留学動機づけと進路選択に関するインタビュー調査」『大阪教育大学紀要』第 部門 教育科学 第 62 巻 第 2 号 pp.181-191

城地茂「日本留学の動機調査」大阪教育大学国際センター『国際センター年報』第 19 号 2014 pp.3-11

赤木登代「ドイツの大学における留学支援」大阪教育大学国際センター『国際センター年報』第 19 号 2014 pp.12-20

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森田 英嗣 (MORITA, Eiji)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50200415

(2) 研究分担者

向井 康比己 (MUKAI, Yasuhiko)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：30110795

長谷川ユリ (HASEGAWA, Yuri)
大阪教育大学・学内協同利用施設等・教授

研究者番号：90273747

城地 茂 (JOCHI, Shigeru)
大阪教育大学・学内協同利用施設等・教授
研究者番号：00571283

赤木 登代 (AKAKI, Toyo)
大阪教育大学・学内協同利用施設等・教授
研究者番号：20324882

中山 あおい (JOCHI, Shigeru)
大阪教育大学・学内協同利用施設等・准教授
研究者番号：00343260

若生 正和 (WAKO, Masakazu)
大阪教育大学・学内協同利用施設等・准教授
研究者番号：40379326

(3)連携研究者

()

研究者番号：